

3 共産主義への移行のための社会主義建設

社会主義社会と共産主義社会は同じ社会の発展程度を異にする2つの段階であり、社会主義社会はまさしく完全に成熟した共産主義社会への過渡的段階であるからには、社会主義社会と共産主義社会とのあいだを万里の長城によってへだてることはできない。事実、社会主義社会の終りが共産主義社会の高い段階のはじまりである。社会主義を建設するのは、社会主義社会にとどまるためにではなく、共産主義社会に移るためである。

さきにのべたとおり、社会主義は共産主義的要素もあり、旧社会の名残りもある社会である。社会主義の建設は、抽象的に、包括的に社会主義的生産関係——共産主義的要素もあり、旧社会の名残りもある——を発展させることではない。社会主義を建設するのは前者を拡大し、後者をとりぞくためであり、共産主義への移行を積極的によりっぱに準備するためである。したがって、社会主義建設の過程では、ブルジョア的権利、労働に応ずる分配と物質的利益の原則を利用すると同時に、共産主義的な新しい事物を発展させることに努力し、あふれるばかりの熱情をもって共産主義的要素が成長し強大になるよう育て、共産主義思想によって大衆を教育し、条件を数えたてたり、報酬を目当てにしないで働らくという共産主義的態度をつちかい、人と人とのあいだの勤労者的な相互協力関係を発展させなければならない。

社会主義建設期に共産主義的要素を発展させる任務について、レーニンはすでに1920年に、「モスクワ＝カザン鉄道の最初の土曜労働から全ロシア土曜労働まで」という文章のなかでこの問題についてきわめてくわしい、共産主義的精神にあふれた記述をおこなっており、それをわれわれは十分体得する必要がある。レーニンはこういっている。

「社会主義を真に建設すること」、「これは生産手段ののろわれた私有によって長年のあいだだけがされ、そこなわれてきた風習そのものをつくりかえ、それと同時に、小規模な個別的経済、『自由』な相互の交換による私有者の経済によって不可避免的に生みだされ、たえず新しく復活してくるいがみあい、不信、敵意、細分状態、たがいに策略をめぐるすといった空気全体をつくりかえるという仕事である。……われわれは『各人は自分のために、神だけが万人のために』というのろわれた準則を一掃するために働こう。われわれは『万人は各人のために、各人は万人のために』という準則、『各人はその能力に応じて、各人はその欲望に応じて』と

いう準則を、大衆の意識と、習慣に、-日常のならわしとして深くしみこませるため、共産主義的規律と共産主義的労働をしないで、だが着実に実施するために、働こう。」（註27）

（註27）レーニン全集、第31巻「モスクワ＝カザン鉄道の最初の土曜労働から全ロシア土曜労働まで」

中国共産党と毛沢東同志はマルクス・レーニン主義の社会主義、共産主義理論にもとづき、わが国における社会主義建設期の任務をさだめた。1958年8月、党中央政治局拡大会議はこう指摘している。「現段階のわれわれの任務は社会主義を建設することである。人民公社の設立はまず第1に社会主義建設のテンポをはやめるためであり、そして社会主義を建設するのは共産主義への移行のために積極的に準備をととのえるためである。みたところ、共産主義がわが国で実現するのは、もはやるか遠い将来のことではない。われわれは人民公社の形態を積極的に運用して、共産主義に移行する具体的な道すじをさぐりあてなければならない。」（註28）

（註28）中共中央の「農村において人民公社を設立する問題についての決議」

1958年12月、党の第8期6中総会はふたたび明確にこう指示している。「現在からはじまって、わが国人民のまえにおかれている任務は、人民公社というこの社会組織形態をつうじ、党が提起した社会主義建設の総路線にもとづき、社会の生産力を高テンポで発展させ、国の工業化、公社の工業化、農業の機械化・電化を促進し、社会主義的集団所有制を1歩1歩社会主義的全人民所有制に移行させ、それによってわが国の社会主義経済を全面的に全人民所有にしていまい、わが国を高度に発展した近代工業、農業および科学文化をそなえた偉大な社会主義国家に1歩1歩していくことである。この過程において、共産主義の要素がかならず1歩1歩増大していくであろう。そしてこれは、物質的条件の面と精神的条件の面で社会主義から共産主義への移行のための基礎をきずくであろう。」（註29）

（註29）中央第8期6中総会「人民公社のいくつかの問題についての決議」

党のこれらの指示はいずれも、共産主義の要素が社会主義建設の過程でしだいに増大するであろうこと、そして社会主義の建設は、つまり共産主義の高い段階に移行するため積極的に準備をととのえることであることを、われわれにはっきりおしえている（註30）。

（註30）これまでの討論において一部の同志はこういっている。「けっして社会主義の建設完了をもって同時に共産主義への移行であるとみなしてはならないし、社会主義建設期をやはり共産主義への過渡期であるとみなしてはならない」、「社会主義から共産主義にいたるにはかなりなが

い、そしてかなり複雑な過渡期を必要とする」(張一青、黄強華、鄭道経、林鴻謙「社会主義社会の建設をなし遂げたらすぐ共産主義社会にはいり始めるのか?」(『七一』1959年1号、45ページ)。当時一部の同志はさきの意見にたいし異った見方を提起していた。

わが国で共産主義を実現するにはどのような物質的、精神的条件をととのえなければならぬか? 中共中央政治局北戴河会議の決議はくわしくそれらの条件を指摘している。すなわち、第1に、社会の生産物がきわめて豊富になること、第2に、全人民の共産主義的な思想自覚と道德品性がすべて非常に向上すること、第3に全人民の教育が普及し、かつ向上すること、第4に、社会主義の時期では保存せざるをえなかった、旧社会からのこされた工業と農業の差異、都市と農村の差異、頭脳労働と肉体労働の差異がみなしだいに消失すること、第5にこれの差異の反映である不平等なブルジョア的権利の名残りもしだいに消失すること、第6に、国家の機能は外部の敵の侵略に対処するためだけで、対内的にはすでに作用をおよぼさないようになること、である。以上の条件が実現したとき、わが国の社会は、各人は能力に応じて働らき、必要に応じて分配される共産主義の時代にはいるであろう。

共産主義への移行の条件を準備するため、われわれは困難かつ巨大なしごとをすすめる必要がある。社会主義的集団所有制から社会主義的全人民所有制への移行であろうと、また社会主義から共産主義への移行であろうと、いずれも一定程度の生産力の発展を基礎とすべきであり、したがって、社会主義建設期においてわれわれは技術革命と文化革命を実行し、社会の生産力を高テンポで発展させ、わが国の「1に貧乏、2に白紙」の姿を徹底的に改め、わが国を近代工業、近代農業、近代科学文化のそなわった強国に建設しとげなければならない。わが国の人民は大躍進的なテンポで国民経済を発展させており、今年いらいまきおこつていよりいっそうの怒濤のような技術革命、文化革命運動の歴史的意義もここにある。なぜなら、その進展はわが国の社会主義建設を大いにはやめ、ソ連を先頭とする社会主義陣営の力を強めることができるからである。社会主義建設期においては、生産力の水準の向上、人民大衆の自覚水準の向上にともない、やはりわれわれは、積極的な措置をこうじ、共産主義がすでに占領しているところの障地を、拡大できるようになっている。わが国労働者・農民、勤労知識人の社会主義建設におけるかがやかしい成果は、つまり、党の社会主義建設の総路線に照らされつつ、共産主義の実現という偉大な理想にはげまされて、かちとられたものである。正しい路線と偉大な思想なくして、このような天地をゆるがすほどの事業をなしとげることは、不可能である。

社会主義建設をはやめ、客観的条件の発展にこたえ、共産主義の偉大な理想を1歩1歩実現するため、党中央と毛沢東同志は、マルクス・レーニン主義的普遍的真理を革命的实践と結びつけ、革命的な大衆運動をつうじふるくさいしきたりを打破し、われわれにぴったりの新しい形態をさがしだし、この形態のうえにたって、連続革命を革命発展の段階論とたくみに結びつけ、社会主義が共産主義に移行するための具体的な道すじをさし示した。

わが国の社会主義——共産主義事業にとって重要な意義をもつのは人民公社というこの社会組織形態であり、それは将来、わが国の農村が集団所有制から全人民所有制に移行するもっともよい形態となり、またわが国が社会主義から共産主義へ移行するもっともよい形態となるであろう。われわれの知っているとおりの、集団所有制の経済は全人民所有制への移行を1歩1歩実現すべきであり、もしこの転化を、機を失せず発展、完成させることをせず、集団所有制という現状をずっと維持し、公社の社員のまなこを小範囲の集団的利益の枠にとじこめておいたら、社会の生産力の継続的な発展と人民の自覚の継続的な向上をさまだげてしまうであろう。だから、そうすることは妥当でない。同時にまたつぎのことを考慮すべきである。すなわち、現在の集団所有制は農業の発展にたいしまだ積極的な役割をはたしており、そして全人民所有制への転化の条件はまだそなわっていない。それだから、せっかちにそれを否定してはならない。人民公社はいま3級所有制を実行しており、生産隊クラスの所有権が基本的であり、公社クラスの所有権は部分的であり、公社クラスの所有権にはある程度、全人民所有制の要素がふくまれている。このような、生産隊を基礎とする3級所有制は、現在の生産力の発展水準と大衆の自覚の水準に照応しており、生産の発展に役だっている。したがって、3級所有制は堅持されねばならない。同時に、人民公社はその発展の必然的傾向として、公社クラスの所有権が基本的だ、という方向へしだいに移っていく。公社の部分的所有制が基本的所有制に転化しさえすれば、将来、わが国の農村での集団所有制から全人民所有制への移行の基礎がきずかれるであろう。これによってわかるとおり、人民公社の優越性は、それが集団所有制のこれまでの基礎を考慮もしているし、また全人民所有制への発展の具体的な道をさし示してもおり、その十分な融通性は、生産力の発展にともない1歩1歩全人民的所有制への移行を実現するという要求にまったく適合している点にある。同時にまた、われわれはつぎのことをしている。人民公社の実行している工・農・商・学・兵の結合、農・林・副・漁業の総合的発展、および「政社合一」の制度、そこでとられている賃金制と供給制を結びつけた分配制度、大量に設けられている公共食堂・敬老院・託児所・幼稚園など公共のための福利措置、これは、社会主義

的な「各人は能力に応じて働らき、労働に応じ分配される」から、共産主義的な「各人は能力に応じて働らき、必要に応じ分配される」へ1歩1歩移行する道、工業と農業の差異、都市と農村の差異、頭脳労働と肉体労働の差異がしだいに縮小し消失していく道、および国家の対内的機能がしだいに縮小し消失していく道を、われわれに明らかにしている。

生産手段の共有制の実現は人と人との労働における共産主義的な新関係の樹立に前提をつくりだした。だが、共産主義的な新関係は自然発生的なかたちで完全に樹立されることは不可能であり、古い習慣、古い伝統をたえず改造し、新しい気風をうちたてていかなければならない。人と人との関係にたいする調整とその完全化は恒常的にすすめてよく、そしてそれは止まるところがない。ある期間ごとに整風運動をおこない、共産主義的原則によって人と人との関係を系統的に調整してきたので、人と人との関係における古い残りがしだいにとり除かれ、共産主義的な新しい関係が日1日より完全なものになっている。また官僚主義的なやり方を批判し、そして「両参・1改・3結合」（訳註・幹部が労働に参加し労働者が管理に参加する「両参」、従来の制度規則を改革する「一改」、党の指導、技術者、大衆の3者を緊密に結びつける「3結合」）を実行し、幹部が労働に参加し、指導者が深く下部にはいり、「試験田」（訳註・幹部が実際の生産に参加し、技術者、大衆とともに新しい先進的経験をつくりだす）をやや、
「現場会議」をひらくなどの制度が推進され、それをつうじて指導者と大衆、管理者、頭脳労働者と大衆とのあいだのほんとうに共産主義的な新しい関係が急速に発展しており、ブルジョア的な個人主義、自己本位主義にたいする批判をつうじ各部門、各単位のあいだの共産主義的な協業がすでに気風になっており、わが国では一般の勤労者のあいだで、「困難はみずからひきうけ、栄誉は他にゆずり、進んだものに学び、おくれたものは援助してやる」という先進的な人物が大量に出現し、「やりやすいことは他人にゆずり、困難なことは自分がひきうける」ということが、すでに社会的気風および新しい道徳の基準となっている。さらにまた、しきたりのみをまもり、みだりに自分を卑下し、たくましさにかけた思想への批判や、不合理な制度、規約にたいする改革をつうじ、わが国の人民大衆は、毛沢東同志の「既成概念をうちやぶり、思想を解放し、すすんで考え・すすんで行動するという共産主義的風格を發揮せよ」との呼びかけのもとで、歴史を意識的に創造するという主導性を十分發揮している。ようするに共産主義精神を發揮せよという偉大なスローガンにはげまされつつ、人と人との関係における古い残存物がいまやたえずうちやぶられ、共産主義的な新しい関係がたえず成長している。このような新しい関係の成長とその増大は、所有制や分配制度のより完全化お

よび生産力の高テンポでの発展にたいし、きわめて重要な作用を及ぼしている。

最後に、分配の面では、われわれは、一方では労働に応ずる分配と、それによって残されたブルジョア的権利がたちどころに、完全にとりのぞかれることは不可能である点を考慮するとともに、他方ではいろいろ多くの措置をこうじて、それをうちやぶるとともに、必要に応ずる分配の要素をふやす必要がある。党はこれまでずっと政治を最大の指導的地位におき、勤労大衆のあいだで共産主義的思想を宣伝し、いちいち報酬を比較し、いちいち個人的な名声や地位を比較するブルジョア思想を批判してきた。都市においては、合理的な低賃金制を実行し、平均主義にも反対し、また賃金のひらきを非常に大きくすることにも反対し、労働者と農民のあいだ、肉体労働者と頭脳労働者のあいだの所得水準のひらきを拡大することをしないで、客観的条件の発展にともないこのひらきを縮小するようにしている（註31）。

（註31）わが国の農民と労働者の消費水準の比率は1953年の1対2・22から1958年には1対1・97に縮小し、国家機関の工作人員の賃金の最高と最低の比率は1956年の28対1から20対1に縮小している（劉子久「賃金関係——賃金の差異について」（『労働』1960年、2ページ）。

賃金形態では、時間払いを主とし、出来高払いを従とする政策がとられており、また集団の福利増進を主とする方針がとられている。このほか、農村では労働に応ずる報酬を主とし、必要に応ずる分配の萌芽をもつところの賃金制と供給制の結合した分配制度がとられている。これらの制度は、一部の面ではすでにブルジョア的権利の枠を突破するとともに、生産の発展と人民大衆の自覚の向上にともない、よりいっそうブルジョア的権利をうちやぶっている。これらの方針の実現は、大衆のまなこを集団の利益にむけさせ、長期の利益にむけさせ、共産主義の輝やかなしい前途にむけさせるのに役だっている。党の正しい方針に指導されつつ、わが国の労働者階級は、報酬めあてでなく働らくという共産主義的態度を大いに発揮しており、労働者たちは「政治を最優先させるべきで、金を最優先さすべきではない」というスローガンを高らかにうちだしている。労働者の自発的要求のもとで、多くの企業は賃金の出来高払い制を廃止している。まさしくこのような先進的思想に指導されつつ、わが国の勤労人民は、骨身をいれとわず、寝食をわすれて働らき、怒濤のような勢いで、「すすんだものと競い、すすんだものに学び、すすんだものに追いつき、おくれたものを援助する」という共産主義競争をまきおこし、社会主義建設の「完全な勝利」の局面を急速につくりだしている。

さきにのべたすべてによってわかるとおり、われわれの社会では、共産主義的な新しい事物いまが非常な勢いで成長している。だがやはり、旧社会の残していったいろいろな残りかすや

習慣の力もなお頑強に抵抗しており、歴史の前進をはばもうとしていることをしるべきである。この2つの道の闘争においては、けっして第3の道はない。これによってつぎのような結論を下すことができる。すなわち、われわれのたれもが共産主義の側にあくまでたつべきであり、古い伝統、古い習慣、古い思想にたいしてはたゆまず闘争し、それによって共産主義的な新しい事物を成長させ、強大にするようにしなければならない。われわれは共産主義事業の実現のために努力し奮闘する思想によって人民大衆を武装し、この思想にはげまされつつ人民大衆が大躍進的テンポでわが国の工業、農業、科学文化を発展させるようにしなければならない。もし社会主義をコチコチなもの、不変なものともみなし、社会主義社会を鋭い矛盾・闘争のない、量的変化があるだけで質的变化のない段階ともみなし、共産主義をはるか将来におしやるようなことをしたら、社会主義を高テンポで建設する必要はなく、共産主義的な新しい事物の成長のために全力をあげて闘争する必要はなく、共産主義を大いに発揚する必要はないという間違った結論をひきだすことになってしまう。そのようなことをしたら、人びとを経済的活動、技術的活動に頭をつっこませ、個人的な眼前の利益に執着させ、すでにかちえた成果に満足させ、ブルジョア的思想と右翼保守思想を成長させることになるであろう。社会主義社会においては、共産主義と資本主義との矛盾・闘争がみちみちており、共産主義思想を最優先させないところはどこも、ことの成行きとしてブルジョア思想が最優先することになる。したがって、社会主義の性質にたいするいかなるあいまいさも、必然的にわれわれの事業に損失をもたらすであろう。

共産主義的な新しいものは、たえざる闘争のなかで成長していく。社会主義建設期においては、社会主義改造の残された任務を達成し、ブルジョア階級を徹底的に消滅し、そして生産手段の私有制を最終的に終らせることのほかになお、社会主義建設の発展にともない社会主義的生産関係と上部構造のなかですでに生産の発展の必要に照応しなくなった部分を変革し、ブルジョア的権利をしいにとりのぞぎ、ブルジョア的な政治・思想的影響をなくしていくようにしなければならない。これらはいずれも重大な革命的任務である。そして「社会主義が資本主義から共産主義への移行であるからには、そこには2つの発展の前途がある。すなわち、1つの前途は社会主義から共産主義への前進であり……、もう1つの前途は社会主義から資本主義への後退である。……」（註32）

（註32）陸定一「労働者農民大衆の哲学学習の意義」（『学習』1958年19号）

わが国の外部においては、帝国主義がつねにあらゆる方法をこじわが国の社会主義制度を

くつがえそうとしている。わが国の内部では、ブルジョア右派およびその他の反動派が、自己の滅亡に甘んぜず、つねに反撃の機会をねらっており、われわれを資本主義のふるい道にひきもどそうとしている。修正主義者は思想的に大衆を蝕み、マルクス・レーニン主義的な革命の魂を去勢しようと努めており、「社会主義国家」の転化を実行しており、かれらは共産主義運動を破壊しようとする帝国主義の悪らつな陰謀の主要な片割れになっている。このような条件のもとで、共産主義思想をたゆまず宣伝し、人民大衆に共産主義の雄大な志をうちたてさせることは重大な意義がある。共産主義の雄大な志がなかったら、鋭いたたかいのなかで容易に反動派のとりこになってしまうであろう。

これによってわかるとおり、社会主義を正しく認識してこそはじめて人びとの共産主義的世界観の樹立に役だち、目標を明確にしつつ前進するのに役だつ。われわれはいま社会主義革命のいぜんたる深まりと社会主義建設の大躍進という新たな歴史的時期におかれている。中国共産党とわが国各民族の偉大な指導者毛沢東同志は、すでに全国人民に社会主義から共産主義への具体的な道すじを示している。そのために活動し、それにむかって突進しよう！ 党の指導があれば、われわれはかならず持続的躍進、高テンポでの社会主義建設を実現することができ、われわれの崇高な理想——共産主義を実現することができるのだ！